

令和7年度 HIV感染症研修会及びHIV医療におけるコミュニケーションとチーム医療研修会プログラム

HIV感染症研修会		HIV医療におけるコミュニケーションとチーム医療研修会
場所：国立病院機構大阪医療センター 緊急災害医療棟 2階 視聴覚室・研修室 またはWeb会議システム「Webex」による参加		場所：国立病院機構大阪医療センター 緊急災害医療棟 2階 研修室
第1日 令和7年9月29日(月)	第2日 令和7年9月30日(火)	第3日 令和7年10月1日(水)
受付 12:30-13:00(30分)	受付 8:40-9:00(20分)	受付 9:20-9:35(15分)
13:00-13:10(10分) 「開会挨拶」 国立病院機構大阪医療センター 院長 松村泰志 研修会説明・諸注意	⑦ 9:00-9:45(45分) 「外来・病棟看護と療養支援」 国立病院機構大阪医療センター HIVコーディネーターナース 東政美	9:35-9:45(10分) 「開会挨拶」 研修会説明・諸注意
① 13:10-13:55(45分) 「HIV/AIDSの基礎知識と疫学」 国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS先端医療開発センター特別顧問 白阪琢磨	⑧ 9:45-10:30(45分) 「日和見感染症診療-PCPを中心に-」 国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS先端医療開発センター長 上平朝子	9:45-11:10(85分) ①講義「話しにくい話題を取り上げて話すには？」 (セクシュアリティと援助的コミュニケーションの基礎知識や具体的工夫) コラボレーション実践研究所所長/大阪府立大学名誉教授 山中 京子 氏 (内容) 陽性者理解の基礎として、セクシュアリティについての基礎知識の確認となる講義と、援助的コミュニケーションの基礎的技法と“話しにくい話題”を取り上げて話す際の工夫についての講義
② 13:55-14:40(45分) 「HIV感染症の診断」 国立病院機構大阪医療センター エイズ先端医療研究部長 渡邊大	休憩 10:30-10:40(10分)	休憩 11:10-11:20(10分)
休憩 14:40-14:50(10分)	⑨ 10:40-12:10(90分) A:症例検討 (医師・薬剤師向け) 感染症内科医師(上平) 薬剤師(中内) B:症例検討 (多職種との連携) HIVコーディネーターナース(東)、 MSW(岡本)、薬剤師(矢倉)、 臨床心理士(西川) 対象:医師・薬剤師向け 2階 視聴覚室 対象:どなたでも 2階 研修室 ※申込時にご希望をご選択ください。人数の都合によりご希望に沿えない場合もございますので予めご了承ください。	②「陽性者支援とセクシュアリティ～日々の業務で感じること～」 国立病院機構大阪医療センター 薬剤部:中内崇夫、看護部:河村湖々 (内容) HIV医療に携わるようになって感じた陽性者支援の難しさ、他疾患との違い、特にセクシュアリティに関して日々の業務で感じていることや、実際の支援での創意工夫などについて、インタビュー形式でこれまでの経験を語る。
③ 14:50-15:35(45分) 「抗HIV薬の特徴と薬剤師の役割」 国立病院機構大阪医療センター 薬剤部 主任薬剤師 中内崇夫	休憩 12:10-13:10(60分)	③講義「多職種連携・協働に必要なチームコンピテンシー」 コラボレーション実践研究所所長/大阪府立大学名誉教授 山中 京子 氏 (内容) チーム医療の実践に必要な多職種連携・協働の基礎知識、チームコンピテンシー、チームモデルについての講義
④ 15:35-16:20(45分) ディスカッション「抗HIV療法の実際」 国立病院機構大阪医療センター エイズ先端医療研究部長 渡邊大 薬剤部 主任薬剤師 矢倉裕輝	⑩ 13:10-13:55(45分) 「HIV感染者における消化管病変」 国立病院機構大阪医療センター 消化器内科 医長 榊原祐子	休憩 12:20-13:20(60分)
休憩 16:20-16:30(10分)	⑪ 13:55-14:40(45分) 「HIVとカウンセリング」 国立病院機構大阪医療センター 臨床心理室 主任心理療法士 安尾利彦	③講義「多職種連携・協働に必要なチームコンピテンシー」 コラボレーション実践研究所所長/大阪府立大学名誉教授 山中 京子 氏 (内容) チーム医療の実践に必要な多職種連携・協働の基礎知識、チームコンピテンシー、チームモデルについての講義
⑤ 16:30-17:00(30分) 「HIV陽性者に対する外科手術」 国立病院機構大阪医療センター 外科 医師 俊山礼志	休憩 14:40-14:50(10分)	休憩 14:05-14:10(5分)
⑥ 17:00-17:45(45分) 「地域で暮らすHIV陽性者の療養生活を支える ～医療ソーシャルワーカーにできること～」 国立病院機構大阪医療センター 医療福祉相談室 医療社会事業専門員 岡本学	⑫ 14:50-15:35(45分) 「血友病診療・凝固因子製剤の使い方」 国立病院機構大阪医療センター 血友病科・感染症内科 医師 西田恭治	14:10-16:50(160分) (途中適宜休憩あり) ④多職種による事例検討 「セルフケアに困難を抱える事例」 (昨年度までと同じ事例を取り上げます) 司会進行/コメンテーター コラボレーション実践研究所所長/大阪府立大学名誉教授 山中 京子 氏 事例提示 国立病院機構大阪医療センター 臨床心理室 牧 寛子 事例への補足説明・コメント 国立病院機構大阪医療センター 看護部 東 政美 (内容) 提示された事例に対し、参加者(医師、看護師、薬剤師、MSW等)は小グループで討議・発表しながら、事例への理解を深め、その職種(個人)としての対応と、チームでの対応について考えていく
	⑬ 15:35-16:35(60分) 「薬害エイズ」とHIV医療体制 特定非営利活動法人 ネットワーク医療と人権<MERS> 理事長 花井十伍 氏	16:50-17:00(10分) アンケート回答・閉会
	16:35-16:40(5分) アンケート回答	
	16:40-16:45(5分) 「修了証授与」・「閉会挨拶」 国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS先端医療開発センター長 上平朝子	